

Ⅲ 研 修

令和2年度夏季研究会

日 時 令和2年8月19日(水) 10:45～12:30
会 場 群馬県立吉井高等学校 多目的室

1 講義

新しい学びはこうしてつくる！～新学習指導要領の実施に向けて～

講師：島田 聡 先生（群馬県教育委員会高校教育課指導主事）

1 はじめに

本日お伝えしたいことのポイントは、「新しい授業」ではなく、「新しい学び」という視点である。つまり、生徒の学びに対し、私たち教員はどんなサポートができるのか？という方向へ思考を転換していくということをお伝えしたい。昨年度の夏季研究会では、生徒が学びの中で働かせる「見方・考え方」について確認し、先生方の理想の授業などについて協議いただいた。本日はもう一步踏み込み、授業改善について提案させていただきたい。

本日の内容（キーワード）

- ★ 高等学校新学習指導要領を確認する
「主体的・対話的で深い学び」「資質・能力」「見方・考え方」
- ★ 実践から理論を理解する
「問い」をデザインする「教師の専門性」

2 新学習指導要領の確認

昨年の教育課程説明会でお伝えしたとおり、今般の改訂において、授業で扱うことについての本質的な変更はなかったと言える。ただし、変えなければならない点もあるので、それを皆さんと共有していきたい。

現行の学習指導要領が学習内容ベースで書かれているのに対し、新しい学習指導要領は資質・能力ベースで書かれているという違いに気づく。ここに留意して授業の構想をすると、「様々な表現形態による歌唱の特徴を理解すること」に留まり歌わない授業や、知識や技能の更新なしに「歌唱表現を創意工夫」して歌うのみの授業は成立しない。そのため、アイウの指導事項を組み合わせ、授業を構想する必要がある。

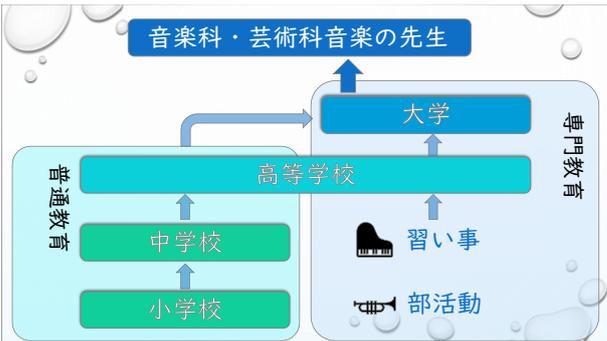
「音楽Ⅰ」歌唱の指導事項の比較

【現行学習指導要領】
ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。

【新学習指導要領】
歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。
イ（ウ）様々な表現形態による歌唱表現の特徴 について理解すること。
ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、（ウ）表現形態の特徴を生かして歌う技能 を身に付けること。

3 私たちはどんな教育を経て音楽の教員になったのか

私たち音楽の教員には、小学校、中学校、高等学校、大学の経験の中で、授業だけでなく、部活動、習い事における音楽の学びがあった。そして、授業という「普通教育」と部活動や習い事などの「専門教育」のどちらでより音楽の能力を育ててきたかと問われたら、おそらく「専門教育」の比重が大きかったと答えるはずだ。



しかし、教員になってみると、専門教科音楽の科目を開設している一部の学校を除いては、普通教育の授業に重きを置かなければならず、専門教育で育んだ力を活用して普通教育を行う。ここに、数学や国語の教員と異なる音楽の教員が陥りがちな落とし穴はないだろうか。例えば、レッスンのような授業をしていないだろうか。また、私たちが児童・生徒だった頃、先生の代りにパート練習の音取りや伴奏をすることもあったが、ここでは、同級生と音楽室という空間を共有しているものの、専門教育で身に付けた能力を発揮するばかりで、私たちにとっての学びはなかったのではないか。スライドにやや過激にお示ししたが、真に音楽の授業を受けてきたとは言い切れない私たちは、どう授業改善を図っていけばよいのかについて、真剣に考えなければならない。

【仮説】
 私達は、音楽を主に専門教育として学んできており、真に音楽の授業を受けてきたとは言えない。
 → 授業で音楽を学ぶことの面白さを知らない？
 → 授業が面白いと感じるポイントを知らない？

↓

授業改善不可？

4 授業改善の視点としての「見方・考え方」

音楽的な見方・考え方とは、

- ① 感性を働かせ、
- ② 音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点でとらえ、
- ③ 自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること

であると説明されている（①～③の付番は話者による）。授業改善のためには、生徒が音楽的な見方・考え方をどう働かせているかについて、常に気を配る必要がある。

例えば、女声三部合唱で「さとうきび畑」を歌う映像を見ていただきたい。この授業の中で、アルトパートが『夏の日差しのなかで』の部分をもっと大事に歌いたい」と考えた。それは、この部分を歌う中で ①、『夏の日差し』という言葉から、修学旅行で訪れる沖縄での地上戦に思いを馳せ、「その事実を忘れてはいけない」という思い ③ と、この部分の速度をリタルダンドさせる ② こととを関連付けて考えた結果、全体の歌唱表現のアイディアとなったと言える。

このように、これからの授業では、生徒が音楽的な見方・考え方における①～③のどの段階を働かせているかを、先生方自身が常に気を配る必要がある。また、総説に「生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること」とあるが、重要なことは、知識や技能を与えることだけでなく、授業の中でも授業の外でも見方・考え方を自在に働かせられる生徒を育むということである。だからこそ、見方・考え方は、授業改善の視点であるとも説明されている。

5 これからの学びを考える〔グループワーク〕

それでは、生徒が見方・考え方を働かせるのに必要となる「問い」について、グループワークを通じて皆さんと共有していきたい。授業改善の視点として、見方・考え方があるとお伝えしたが、教材研究で楽曲を注意深く聴いたり、授業全体を構想したりする場面で、専門性が必要になる。生徒が見方・考え方を働かせない授業は、生徒が先生を真似するだけの「レッスン」になる。専門教育では、そういう部分も必要となるかもしれないが、普通教育では、生徒が思考・判断したくなる、自分の意見・考えを整理したくなる、他者の意見を聞きたくなるような、「場」、「場面」などの設定が必要。それを実現するのが、「問い」であると考えている。

例えば、「今日のランチは何を食べましたか？（質問）」「今日のランチは何を食べたでしょうか？（発問）」「今日のランチは何を食べましょうか？（問い）」のように、同じような語句を並べても、機能的には全く異なる。

「問い」では、問う側にも問われる側にも定まった答えはなく、仮に互いに答えを持っていたとしても、問う段階では合意形成はなされていないため、創造的な対話が生まれる。この創造的な対話が、自分の考えを整理し、他者の意見に耳を傾けることにつながる。

これを先ほどの「さとうきび畑」の事例で考えると、「みんながイメージしている「さとうきび畑」にするには？」と問うことで、アルトパートの生徒は、それぞれに自分のイメージする「さとうきび畑」について再度整理し、他者と合意形成しながら創意工夫につながったと言える。

今後は、私たち自身が受けてきた授業やレッスンの再生産に留まることのないよう、学びのプロとしての生徒に対し、学びの場を提供できる専門性を磨く必要がある。つまり、私たちは、音楽家としての知識や技能も要求されるが、学びのプロである生徒が思考・判断・表現したくなる問いをつくる「教師としての専門性」が要求される時代に突入したということだ。生徒一人一人の心に火をともし、授業内外で見方・考え方を働かせられる生徒を育てるため、生徒とともにどんな問いを立てるかを常に考える教師であってほしい。

「質問」と「発問」と「問い」
安斎勇樹（東京大学大学院特任助教）

種類	問う側は答えを	問われる側は答えを	機能
質問	知らない	知っている	情報を引き出すためのトリガー
発問	知っている	知らない	考えさせるためのトリガー
問い	知らない	知らない	創造的対話を促すトリガー

みんながイメージしている「さとうきび畑」とは？

みんながイメージしている「さとうきび畑」になっていた？

みんながイメージしている「さとうきび畑」にするには？



2 閉会行事

挨拶

荻野 葉子先生（群馬県高等学校教育研究会音楽部会副部会長）

新学習指導要領の実施に向け、学ぶことへのサポートや授業改善の視点からの話、グループワーク等を行っていただいた。今日の研修での学びをいかして、積極的に授業改善をしていってほしい。新型コロナウイルス感染症対策を講じ、授業において様々な工夫をいただく中、ICTを活用した学習支援の取組も進められている。大きな変化の中、先が見えない状況が続いているが、先生方には健康にご留意いただきたい。

3 参加者（敬称略・順不同）

小松 祐一（吉井）	荻野 葉子（館林女子）	島田 聡（教育委員会）	鈴木 裕子（前橋西）
牧野 勇（前橋東）	黒岩 伸枝（高崎）	東 喜峰（高崎東）	小板橋玲子（高崎北）
小林 理紗（高崎女子）	須田 諭美（吉井）	鈴木香奈子（桐生南）	青柳 亮（桐生女子）
川上 寛子（伊勢崎）	武井 康博（伊勢崎商業）	橋詰 詩織（太田女子）	木部 誠（太田フレ）
松平 康子（尾瀬）	斎藤真里奈（沼田女子）	前島 律子（館林）	横堀 翼（渋川青翠）
山屋 寿徳（渋川青翠）	井上 春美（藤岡中央）	金田 知子（富岡）	角田 幸枝（安中総合）
富岡 恵美（安中総合）	野口 瑞穂（大間々）	藤川あさみ（万場）	大谷 邦子（下仁田）
五十嵐桃子（長野原）	齋藤絵梨子（玉村）	金井 由樹（桐生商業）	引田 麻里（市立太田）
山元 唯佳（利根商業）	西田えりか（赤城特支）	住谷 伴（高崎特支）	大小原美幸（高高特支）
田中ちひろ（高高特支）	須田 玲子（渡特支）	坂本 将（教育委員会）	

文責：山元 唯佳（利根商業）